

令和3年度 4歳児「こま回し」

1. 期間 10月下旬～3月

2. 設定の理由

1学期には、園庭で思い切り走ったり、固定遊具で遊んだり、大型積み木を並べたり、木登りをしたりして、様々に体を動かすことを楽しんできている。その中で、固定遊具の高いところに登りたい、木登りで上まで登りたい、など、少し難しいことに向けて、できるようになりたいと思い、繰り返し取り組む姿も見られるようになってきている。また、バナナ鬼などの鬼ごっこで、追いかけたり追いかけられたりして友達や教師と一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、勝ち負けがあることで、勝って嬉しい気持ちや負けて悔しい気持ちを、友達と一緒に感じたりする経験をしてきている。また、運動会では、リズム表現では全身を使って友達と一緒に表現する楽しさや、物語の展開を考える面白さを感じた。

また、玉入れでは玉を入りたい、速く走りたいと具体的な目的をもち、考えたり試したりして繰り返し取り組む中で、できるようになったり、前よりも上手になったりしたことを嬉しいと思ったり、自信をもったりした。また、投げたり走ったりすることが得意な友達の個性やすごいいところに気付いたり、チームが勝てるようにどうしたらいいか考えたりして、思いついたことをしようとするような姿も見られている。

このような経験をしてきた4歳児の子どもたちに、運動会のご褒美としてコマを1人2つずつ渡し、取り組んでいくこととする。手回しゴマは3歳児のクリスマスプレゼントでもらい、経験をしているが、紐ごまに触れた経験のある子どもはほとんどいない。

すぐに紐が巻けたり、こまが投げられたりするわけではないので、ひもを巻いたりこまを回したりできるようになるまでに時間がかかる。その時間の中で友達に紐の巻き方やこまの回し方を教えてもらって、保護者や友達の優しさを感じたり、すごいと思ったり、巻き方や投げ方、足の開き方などコツをつかんだりしていく。また、最初はなかなかできなくてやっとなんかできるようになったという過程は、できた時に大きな自信へつながるものとなる。

こま回しでは、一人ひとつ自分のこまがあり、いつでも手にとって遊べる環境にある。そのため、紐が巻けるようになりたい、こまを回したいなど具体的な目標をもっていつでも挑戦できる。しかし、こま回しは、それぞれでコツをつかむまでの時間や練習時間も違うので回せるまでに個人差が出る。

そこで、人と比べるのではなく、前の自分と比べてできるようになったということを自覚し、自信をもってほしいと考える。そして、回せたら終わりではなくて、狭い的に狙って投げる、友達や教師より長い時間回す、回すのが難しい大きなこままで回すなど個人のレベルに合わせて次のステップアップした目標ができ、挑戦し続けられる状況や環境を作っていきたい。

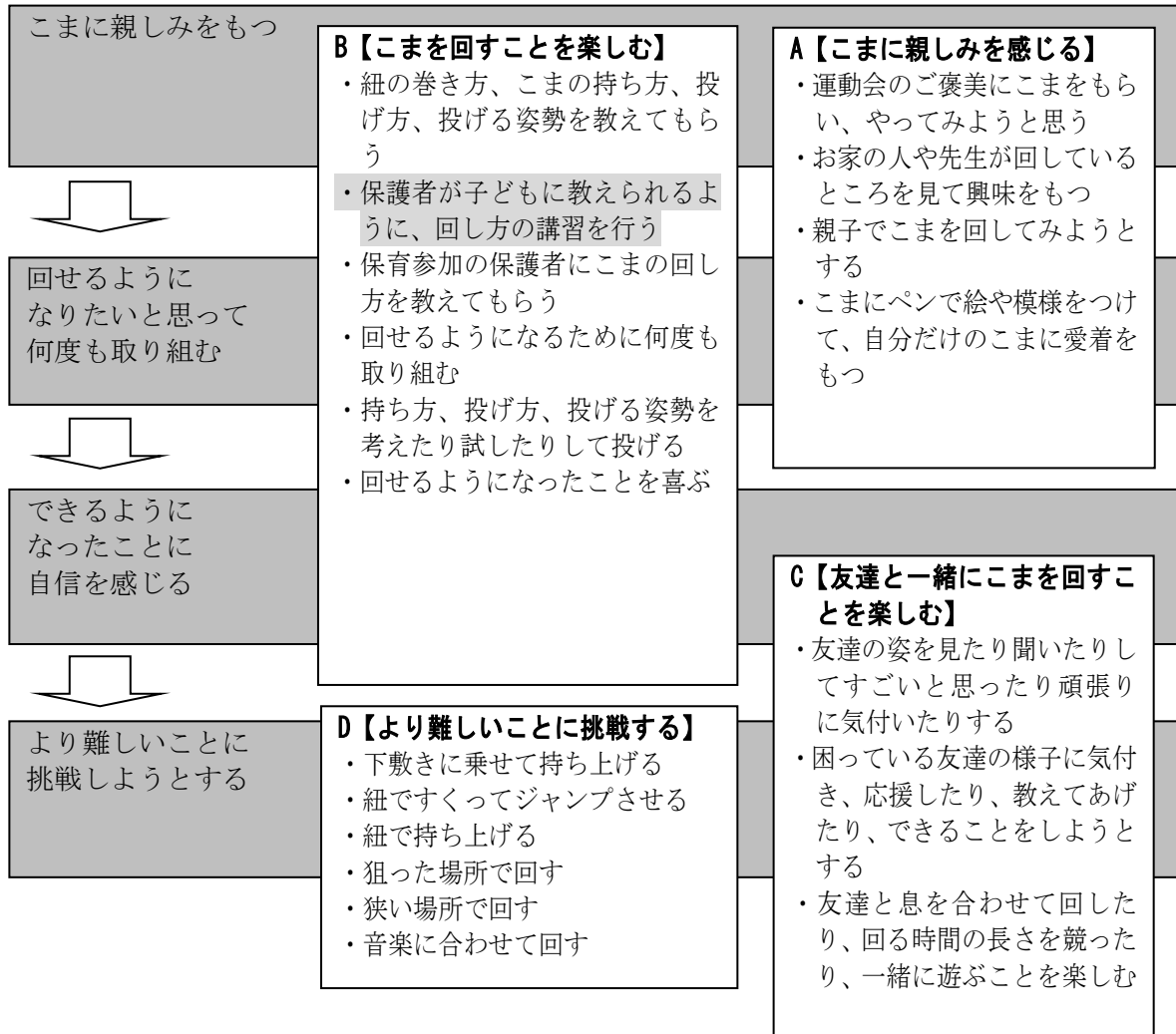
3. ねらい

- | | |
|---|------------------------|
| ① 紐を巻けるようになりたい、回せるようになりたい、先生や友達より長く回したい、狭い台で回せるようになりたいなど具体的な目標をもって挑戦したり、繰り返ししたりする | 自ら決める・選ぶ |
| ② <u>紐が巻けるようになった、こまが回せるようになった、昨日より長く回った、狭い台を狙って投げて回せるようになったなど以前はできなかったことができるようになったことを喜んだり、できるようになった自分に自信をもったりする</u> | 自分に満足する
自分を客観的に把握する |
| ③ 先生や友達、お家の人に回し方を教えてもらったり、応援してもらったりして嬉しく思ったり、こまが回ったことを一緒に喜んだり、どちらが長く回せるか勝負したり、こまをぶつけ合ったりして一緒に遊ぶ楽しさを感じたりする。 | 他者という喜びを感じる |
| ④ 巻き方を優しく教えてくれた、投げ方をやって見せてくれたなど友達の優しさを感じたり、頑張って何度も練習する友達の存在に気付いたり、上手にこまを回せる、長く回せる友達を見て、すごいと思ったりする。 | 他者のことを知る |
| ⑤ 紐を巻くことができなかったり、なかなか回らなかったりして困っている | 他者のことを考えて |

- | | |
|---|--|
| | 行動する |
| ⑥ 友達の様子を見たりして、紐を巻いてあげたり、自分の考えたこまの持ち方や投げ方、投げる姿勢を教えてあげたりする | 身を守る |
| ⑦ 近くで友達がいると、こまが当たって危ないことを知ったり気付いたりして、周り確かめたり、投げることを知らせたり、友達が離れるのを待ったりしてから投げようとする | 身体を操作する
<small>問題を認識する
豊かに発想し、追及の手立てを構想する</small> |
| ⑧ ほどけないように力を調節して紐を巻く、足を肩幅ぐらいに開く、ひざを曲げて低い姿勢になる、手を後ろに引いてこまを投げる、遠くを狙って投げるなどこまを投げる時の姿勢や身体の使用方、動かし方を見たり教えてもらったり自分で考えたりして、試す。 | 造形にあらわす |
| ⑨ こまは、止まる前はフラフラになる、こまが斜めに傾いて回るとすぐに擦れ滑って止まる、こまは裏向きでも回る、紐はきつく巻きすぎると盛り上がって巻けないなど、こまの止まり方や回り方、紐の巻かれ方の特徴を感じ、楽しんだり、驚いたりする | 事物をとらえる |
| ⑩ こまを回すと、色や模様が変わることを感じて、きれいだと思ったり、面白いと思ったり、驚いたり、不思議に思ったりして何度も試す | 現象をとらえる |
| ⑪ こまの回る様子や止まりそうな様子を見て、 <u>回る速さの違い、回っている時間の長さの違い</u> を感じる。 | 数・量をとらえる
<small>比較する</small> |
| ⑫ こま回しをしてもよい場所といけない場所やその理由を教えてもらい、場所を考えてこまを回す | 施設や働く人とながりをもち

場所を考えてこまの板を置く姿
→住空間？ |

4. 展開



A【こまに親しみをを感じる】		
予想される子どもの活動	ねらい	* 環境の構成 ◎教師の援助
・運動会のご褒美にこまをもらう ・保護者や教師が回しているところを見る ・こまにペンで絵や模様を付ける	○お家の人や先生がこまを回す様子を見て、自分も回してみたいと思う。① ○こまに好きな色や模様をつけたり、絵を描いたりすることを楽しむ。⑧ ○こまを回すと色や模様が変わることを感じて、きれいだと思ったり、面白いと思ったり、驚いたり、	* 自分だけのこまを大切にできるように、また、親子で一緒に取り組めるように、ひとり2つずつこまを渡す。 ◎こま回しを楽しそうだったり、自分も回せるようになりたいと思ったりするように、こまを回して見せたり、誘ったりする。 * 色をつけたこまが回るイメージをもてるように、色をつけたこまを目に付くところに用意する。 * 自分で好きな色や模様を付けられるように、ペンを用意しておく。 ◎自分だけのこまに愛着を感じられるように、子どもの作ったこまの素敵なところを褒めたり、周りの友達に知らせたりする。 ◎止まっている時のこまと回っている時のこまでは色や模様が違って見えることに注目できるように、回すと色の変化がはっきりする色の組み合わせで色を塗ったこまを回して見せる

	不思議に思ったりして何度も試す。⑩	
--	-------------------	--

B【こまを回すことを楽しむ】		
予想される 子どもの活動	ねらい	* 環境の構成 ◎教師の援助
・紐の巻き方、こまの持ち方、投げ方、投げる姿勢を教えてもらう ・保育参加の保護者にこまの回し方を教えてもらう ・回せるようになるために何度も取り組む ・持ち方、投げ方、投げる姿勢を考えたり試したりして投げる ・回せるようになったことを喜ぶ	○こまを回せるようになりたいと目標をもって繰り返し回そうとする① ○先生や友達、お家の人に回し方を教えてもらったり、応援してもらう嬉しさを感じる。③ ○紐の巻き方やこまを投げる時の姿勢や身体の使い方・動かし方を考えたり試したりする⑦ ○以前の自分と比べてできるようになったことを喜んだり自信をもったりする② ○周りに友達がいないか、投げたこまが当たらないか、教えてもらったり、気付いたりして、気を付けてこまを回そうとする⑥ ○こまの止まり方や回り方、紐の巻かれ方の特徴を感じ、楽しんだり、驚いたりする⑨ ○こまの回る様子や止まりそうな様子を見て、回る速さの違い、回っている時間の長さの違いを感じる⑪ ○こま回しをしてもよい場所といけな場所やその理由を教えてもらい、場所を考えてこまを回す⑫	* 教師や保護者、友達の様子に目を向けて興味関心をもてるように、テラスや園庭などにこま板を置く。 * いつでも手にとってこまを回せるように、こま板やこまの置き場を用意する。 ◎繰り返し回せるように十分な時間をとる ◎お家の人や友達と一緒にこまを回す楽しさを感じられるように、頑張っているとこころ応援したり、うまくいったことを一緒に喜んだりする。 ◎体の使い方のコツを掴んでこまを回せるように、回して見せたり、手を添えて一緒に紐を巻いたり、こまを投げたりする。 ◎以前の自分と比べられるように、前よりどんなところができるようになったのか具体的に褒めたり、知らせたりする。 ◎できるようになったことに自信がもてるように回せるようになった子には、みんなの前で披露する時間をとる ◎こまを投げる時には、友達に当たらない場所に動いたり、投げる前に周囲を確認したりできるように、友達に当たりそうになっている子どもに個別に声をかける。 ◎こまの止まり方や回り方、紐の巻かれ方に注目できるように、友達がしている様子に注目させたり、一緒に驚いたりする。 ◎回る速さの違いや、回っている時間の違いを感じられるように、スピードが遅くなってきたことを言葉にして知らせたり、回っている時間の長さを一緒に数えたりする。 ◎場所を考えて回せるよう理由を教えたり、声をかけて思い出させたり考えさせたりする

C【友達と一緒にこまを回すことを楽しむ】		
予想される 子どもの活動	ねらい	* 環境の構成 ◎教師の援助
・友達の姿を見たり聞いたりしてすごいと思ったりと頑張りに気付いたりする ・困っている友達の様子に気づき、応援したり、	○友達の様子を見て、こまを回せる、長く回せるなど友達のことをすごいと思う④ ○友達がなかなか回らない様子を見てやり方を教えてあげる⑤	◎こまを回せる友達のことを知ったり、友達の頑張りに気付いたりできるように、紹介する場や見せ合う時間をとったりする。 ◎困っている友達を見て助けてあげようと感じられるように、困っている友達の様子を知らせたり、教えてあげている姿を褒めたり、教えてもらったおかげでうまくいきそ

教えてあげたり、できることをしようとする ・友達と息を合わせて回したり、回る時間の長さを競ったり、一緒に遊ぶことを楽しむ	○友達にこまの持ち方や投げ方、投げる姿勢などを教えてもらって優しさを感じる④ ○友達とどちらが長く回せるか勝負したり、こまをぶつけ合ったりして、一緒に遊ぶ嬉しさを感じる③	うなことを伝えたりする。 ◎友達の優しさを感じられるように、教えてもらった喜びに共感したり、友達の優しさを一緒に感じて言葉にしたりする。 ◎友達同士で集まってこま勝負をしようと思えるように、回っている長さに驚いたり褒めたり、教師が勝負に挑んだりする。
---	---	--

D【より難しいことに挑戦する】		
予想される 子どもの活動	ねらい	* 環境の構成 ◎教師の援助
・下敷きに乗せて持ち上げる ・紐ですくってジャンプさせる ・紐で持ち上げる ・狙った場所で回す ・狭い場所で回す ・音楽に合わせて回す ・発表会で保護者や友達に見てもらう	○狭い台で回したい、大きなこまを回したいなど具体的な目標をもって挑戦したり、繰り返ししたりする① ○友達の様子を見て、いろいろな技ができる友達のことをすごいと思う④ ○より難しいことをできるようにになったことに自信をもつ②	* より難しいことや面白いことに挑戦してみようと感じられるように、下敷きや狭い台などを用意する ◎こまが回せるようになってもしっかり難しいことにも挑戦し続けられるように、いろいろな技をやって見せたり、友達のやっている様子を掲示したりする。 ◎狭い台で回したり紐に乗せたりできる友達の様子に気付けるように、回せる子に注目させたり、じっくり見る時間をとったりする。 ◎できるようになったことや挑戦したことに関心を感じられるように、頑張りを友達や保護者に見てもらう機会を設ける。